

令和3年度大阪府立吹田東高等学校  
 第2回学校運営協議会  
 日 時：令和3年12月9日（木）  
 場 所：大阪府立吹田東高等学校 会議室

・委員	古本 隆	吹田市立千里丘中学校 校長
	竹岡 富美男	さくら北浜法律事務所 弁護士
	柏渕 眞理子	東山田青少年対策委員会委員長
	古川 益美	吹田東高等学校 後援会会長
	和田 大志郎	吹田東高等学校 PTA会長

校長 事務局	東 知佐子	吹田東高等学校 校長
	出口 学	吹田東高等学校 教頭
	岡本 秀樹	吹田東高等学校 事務長
	村上 明弘	吹田東高等学校 首席
	山室 裕	吹田東高等学校 首席

## ◆学校長挨拶

- ・今年度コロナ禍での学校行事や新たな取組について。

## ◆議 事

### ○報告事項

(1) 生徒による授業アンケート結果について（東校長）【資料①1－4参照】

○実施時期，方法の説明

- ・第1回は令和3年7月19日実施、マークシート方式。

○結果分析の説明

- ・令和元年に大きく値が向上し、令和2年度3年度とさらに向上している。  
今年度はICT活用や多面的な評価等の工夫を行っている事が結果に繋がったのではと思われる。
- ・今年度は学校経営計画で高い目標を掲げたが、第1回は達成することができた。
- ・「生徒取組1・2」の生徒の自己評価は例年高いが、今回もより高くなっている。
- ・「授業分析」の項目が最も低いですが、授業の進め方や内容について、生徒に繰り返し説明していく。
- ・例年、実技科目は座学科目に比べ評価が高い傾向にあるが、今年度は高評価を得にくい傾向にあった地歴公民や理科が学校平均を上回るようになっている。

○今後の予定の説明

- ・中間考査後より公開授業週間を実施し、授業改善の意識を高めている。
- ・第2回は令和3年12月24日実施予定。

(2) 令和3年度学校経営計画の進捗状況について（東校長）【資料②】

○本年度の取組内容及び自己評価について

- ・各中期的目標における自己評価の進捗状況（資料②）の説明

## (3) 生徒1人1台端末の導入と取り組み状況について(山室首席)【資料③】

## ○背景

- ・文部科学省のGIGAスクール構想の実現のため、ICT環境を整備する一環として生徒1人に1台の端末を配備することになった。

## ○本校の現状

- ・1, 2年は9月30日、3年は10月26日に配付し、授業等での調べ学習や質問への回答などで活用が始まっている。

## ○Chromebookを扱う上での注意(資料③)

- ・教室に掲示しているが、今後新たな事例も出てくると思われるので、その都度ルール作りをしていく。
- ・授業等の目的以外での使用は禁止している。

Q 委員 卒業時の返却でリセット等どのように行うのか。

A 府教委から指示があると思われるが、生徒がリセット(初期化)して、次年度の入学生に配付する。

Q 委員 検索サイトは一律に禁止しているのか。

A 検索は自由にできるが、YouTubeなど府教委が禁止しているサイトがある。

委員 中学校では2, 3年生は昨年度末、1年生は今年度初めに配付した。

ネット環境はあまり良くないが、まずは使い方やパスワードの管理とかを慣れさせることが目的。生徒によってはかなり使いこなせている。なりすまし等の問題もある。授業での有効的な活用法は研修等を行い、これから検証を進めていく。

Q 委員 なりすましの話が出たが、SNSにつながるのか。

A SNSは多くは制限がかかっている。

Q 委員 授業で活用していて良かった点は。

A 教員からの提示に生徒の反応は良い。学習意欲を高めるという点でも良いと思う。

A 黒板に提示している物をChromebookで見れるようにしたり、辞書的に活用している生徒もいる。

## (4) 「観点別学習状況の評価」導入に向けた取り組み状況について(山室首席)【資料④】

## ○背景

- ・来年度の入学生より評価の仕方が変わり、3つの観点を同じ比重(大阪府独自のもの)で評価するようになる。

## ○次年度に向けた取り組み

- ・1学期に英語1チーム、数学2チームで試行を実施。
- ・結果を研修で共有し、2学期に各教科で試行を実施。
- ・内規の改訂を検討中。

## ○数学Ⅲと理系数学演習での口頭試問の例(資料④)

- ・事前に質問を提示し、8回の授業を使って1人当たり8分の口頭試問を行った。

## ○今後の課題

- ・数学では少人数の授業や単位数の多い授業では実施できるが、40人のクラス授業では困難なため、グループワークなど他のやり方を検討する必要がある。
- ・英語では教員と生徒が1対1で、リテリングを実施したが、教員間での評価のばらつきができることがあった。従来評価よりもパフォーマンス評価の比重が大きいことから成績全体として高く評価されることがあった。これらの調整をどのようにしていくかを検討中である。
- ・1, 2学期の試行結果を集約し、次年度に向けた内規を整備していく予定である。

Q 委員 大阪府独自の3観点が同じ比重であるが、「主体的に学習に取り組む態度」というのは、どの教員が見ても同一に評価できるようなやり方が課題ではと思われる。

A その通りで、「主体的に学習に取り組む態度」というのが数値化しにくいので、当初は3観点それぞれを3段階で評価していくようなやり方になるかも。成績が指定校推薦などに関わってくるので検討必要。

委員 生徒の個性に合わせて評価するというのも難しいと思われる。

- A 大阪府が3観点を同じ比重にしたいのは授業改善を進めたいという意図がある。  
試行で1学期に行った授業では、「主体的に学習に取り組む態度」を見るためのパフォーマンス課題を取り入れるなど、今までと違った内容になっている。  
ただし、それが進路につながる公平な評価になるかということ、差がつきにくく、課題点がある。
- 委員 中学校でも、「主体的に学習に取り組む態度」の評価が課題である。  
授業にどのように取り組めたかという振り返りもさせて評価しているが、数値化するのが難しく確かにこの観点では差が出にくくなっている。他の観点では差が出るので5段階で評価している。
- 委員 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は教員によって受け止め方が違ったり、性格の違いから態度に表れにくい生徒がいるなど評価が難しく、また公平にできるのか。それが進路に関わるということは疑問に思うところがある。
- A 提出物の数や発表の回数で評価しないという指針が出ている。  
振り返りシート等を活用しながら評価していくことになるが、これによって教員の負担も多くなると思われる。小中学校では評価疲れも出ていると聞いている。  
試行の段階でいくつか問題点も出てきているので、今後も試行を重ねながら公平に評価できるように検討していく。
- 委員 生徒が不公平感を感じるような評価にならないようにするためにはすごく難しいと思う。
- 委員 また、教員はコロナ禍で授業の遅れや対応しなければいけない事も多い中、新しい取り組みを行うのはより一層負担が大きくなると思う。
- A 評価する上で個別対応することが多いため、授業の人数を少なくしてほしい。
- 委員 観点別の評価については、結果だけを求めるのではなく、課題に対してどう取り組んだか、授業で何かきっかけを掴みそれを次に活かせるという様な目的もあるのでは。

## ◆諸連絡

次回（第3回）の日程 1月17・19・28日のいずれかの15時30分から後日調整する。